

## 2021 年度イフパット年次総会議事録

日時： 2021 年 5 月 26 日（木）14:00～15:30、於：イフパット事務所および ZOOM 会議  
出席者：理事：櫻井、西村、永井、大塚、監事：岩崎、 議長：狩野 事務局：美馬、大野  
ZOOM 参加：理事：伊藤、和田、 会員：斎藤、吉田、錦織  
表決票の提出：19 名 ZOOM 総会出席者：13 名 合計：32 名  
（正会員総数は 43 名であり、3 分の 1 以上の出席と認められ、定款 27 条により  
総会は成立。）

審議内容：

- ① 櫻井会長の開会挨拶の後、議長に狩野会員、書記は事務局、議事録署名人に永井会員と大塚会員を選任して議事を始めた。
- ② 2020 年度事業報告（1 号議案）を総会資料により報告した。

2020 年度はコロナ感染拡大が全世界で継続する中、JICA 事業も全面的に中断を余儀なくされた。このため当初予定されていた事業の実施が困難となり、計画の半分程度の事業収益となった。予定していた研修コースのうち、モルジブ青年招へい研修が中止になったが、その他の 5 研修は遠隔研修で実施することが出来た。しかし、20 年度に開始予定だったベトナムとエルサルバドルの草の根事業は 2 件とも開始することが出来ず収益にも大きく影響した。

このため、収益減を補てんするため持続化給付金 200 万円の申請をし、講師謝金消費税の過年度 3 年分の支払額（1,202 千円）の還付請求も認められて、合計 3,202 千円の雑収入を計上できたことで、当期正味財産増減額は 1,478 千円の赤字に抑えることが出来た。

- ③ 2020 年度決算報告（2 号議案）を総会資料により報告した。

・岩崎監事から事業と経理合わせて監事報告がされた。研修事業は、初めてとなる遠隔研修での実施となったが適切に実施され、また避難帰国中の協力隊員等への自主事業等でイフパットが貢献できたことは評価できる。

- ④ 2021 年度事業計画（3 号議案）を総会資料により報告した。

本年度も、コロナ感染症の終息の目途は立たないことから、JICA 事業への影響も続くと思われ、遠隔研修継続し草の根事業の実施も不確定な状況が予想される。  
経常収益については 59,859 千円（2020 年度は 32,812 千円）と計画している。これに対し、経常費用は、56,690 千円程度を予定しており、草の根事業が計画通り動き出せば的前提ではあるが、当期正味財産増減額は 3,168 千円程度の黒字が確保できると

想定している。

- 1) 研修コースの受託：本年度は、昨年度と同じく5コースの研修を予定している。
- 2) 草の根事業：ベトナムとエルサルバドルの契約も概ね終了しているが、開始時期は確定していない。両案件の2021年度事業費を、不確実ではあるが24,000千円を予定。

⑤ その他

○インターン学生の受け入れ

・日本大学教授富岡丈朗会員からの依頼で、本年4月から1年間、生活改善研修の事務管理業務補助を中心にインターンとしての受け入れを予定している。

(笠掛怜美 日本大学国際関係学部 4年生)

⑥ 2021年度予算案(4号議案)を総会資料により報告した。

⑦ 質疑応答

・(和田) NPO ドットジェイピーから、本年8、9月期に2名のインターンの受け入れの依頼があり、生活改善研修での受け入れを予定する。

・(大塚) イフパットサロン開催の要望があるが、コロナ禍の中開催方法やアイデアを提供してほしい。

・(斎藤) パナマ大学から中南米の畜産のオンラインセミナーの依頼があり参加したが、中南米では畜産の分野のニーズは高いので、イフパットサロンでも検討できないか？

⑧ 1号議案から4号議案まで、一括して採決し承認された。

⑨ 議長解任

⑩ 閉会

以上

2021年6月10日

議長：狩野 良昭

議事録署名人：永井 和夫

議事録署名人：大塚 寛治



上記は、特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク 2021 年度年次総会議事録の謄本であることを証明する。

特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク

代表者氏名： 櫻井 文海

